

平成30・令和元年度鹿児島県「たくましい“かごしまっ子”」
育成推進事業推進校 研究公開
湧水町立吉松中学校

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる生徒の育成
～運動習慣育成の取組を中心として～

2 全体会Ⅰ（研究発表）

吉松中学校では、平成30年度からの2年間にわたり鹿児島県教育委員会「たくましい“かごしまっ子”」育成推進事業研究指定校として、「生涯にわたって運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる生徒の育成」を研究主題に、研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、研究の成果の中心でもある、生徒たちが運動に対して積極的に取り組むようになった要因や生徒の運動好きの増加につながった要因等についての説明がなされました。

特に、生徒に対して、朝の運動や昼休みの体育館開放など様々な手立てを講じることで、生徒の運動の機会や運動時間が確保され、より多くスポーツを体験させることができたということです。また、専門の外部講師や地域人材を活用し、その指導を受けることにより生徒自身がより“本物”に触れることができたという説明がありました。

研究の内容は以下の通りです。



【全体会Ⅰ 研究発表の様子】

【研究の実際】

1 仮説Ⅰ

「動く楽しさ」・「分かる楽しさ」・「伸びる楽しさ」・「かかわる楽しさ」を体感する活動を行うことで、運動に対して前向きに捉えられるようになるだろう。

- (1) 動く楽しさ ⇒運動機会の確保・運動時間の確保・様々な運動体験等
- (2) 分かる楽しさ ⇒外部講師の活用・地域人材の活用・学習資料の工夫等
- (3) 伸びる楽しさ ⇒部活動との連携・体力アップ！チャレンジかごしま等
- (4) かかわる楽しさ⇒準備運動の場面やワークシートを活用する場面で学び合いの場を設定

2 仮説Ⅱ

健康保持の充実を図る啓発や活動をすることによって、健康に対する意識を高めるであろう。

- (1) 生活習慣づくり⇒生活リズムチェック（生徒会保体部）
- (2) 食習慣づくり ⇒食の指導，心の健康の充実（アンガーマネジメントやペップトーク等）

3 公開授業

湧水町立吉松中学校2年生（計24人）の陸上競技（ハードル走）の授業が公開されました。

授業は、晴天の中、谷山啓史教諭が行いました。通常のハードル以外にも教具が多数準備されており、個に応じた指導ができる環境が整っていました。また、学習目標や学習の流れなど可視化されており、生徒が意欲をもって授業に取り組んでいました。

授業が始まると、生徒が準備運動や補助・補強運動に全力で取り組む姿が見られました。とりわけ、継続して取り組んでいる「チャレンジ！かごしま」の長縄エイトマンに挑戦する場面では、跳躍のあまりのスピードの速さに参観者からも驚嘆の声が上がりました。失敗しても励ます姿があり、全員が真剣に取り組んでいました。

また、谷山教諭が準備した教材・教具を活用し、生徒自身が自らの課題解決に向けて仲間と交流しながら授業に臨む姿がありました。生徒が見通しをもってハードル走の練習に励み、運動することの楽しさや仲間と学び合うことの喜びなどを感じているようでした。運動が得意な生徒も苦手な生徒も、運動に対して前向きに捉えている姿がそこにありました。



【体幹トレーニングの様子】



【学習目標の確認】

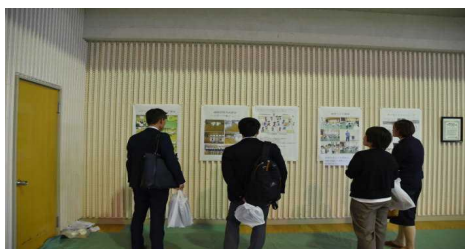


【競い合いながらハードル走に挑戦する姿】

4 全体会Ⅱ

授業研究では、参観された先生方からたくさんの感想や質問が寄せられました。特にグルーピングの意図やICTの活用状況、準備運動の工夫など学校に持ち帰って実践できる内容についての質問が多くだされました。

研究協議では、他教科との関わりや研究を経ての生徒の変容について意見交換がなされました。生徒の変容については、運動することを前向きに捉えることで意欲が高まり、その結果として体力や運動能力の向上、運動好きの生徒の増加につながったことが確認されました。今後、今回の研究を通して学んだことを土台として、これまで以上に主体的に運動に親しみ、中学校を卒業してもスポーツを楽しむ生徒を育てていていただきたいと願います。



【活発な意見交換と資料の掲示】